

「ひなまつりの花粉光環」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

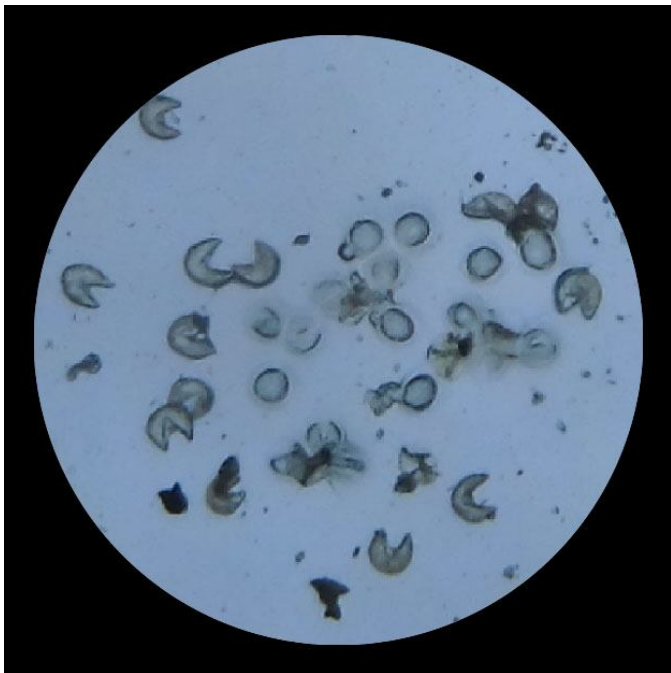
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

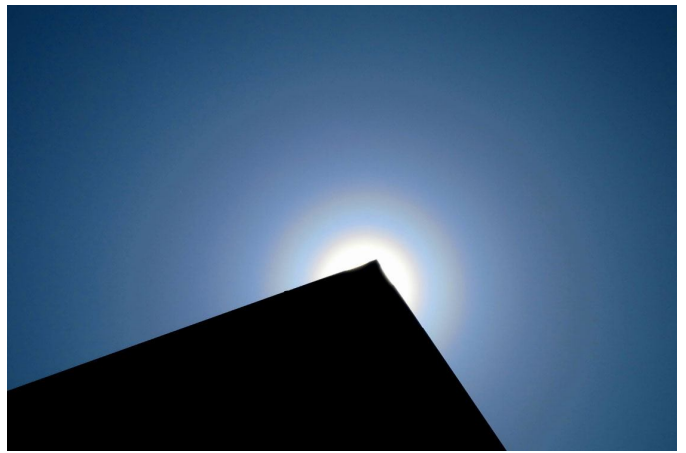
今日の東京はよく晴れて暖かかった。天気予報でも「花粉は非常に多く飛ぶ」と言っていた。果たしてその通りになったのだ。こんな日には「美しき嫌われ者」---「花粉光環」を観察できる。



花粉光環というのは、空気中に大量に漂う花粉微粒子が、太陽の周囲に虹のように色のついた「環」をつくる現象である。太陽本体(光球)はあまりにも明るいので、何か地上物で遮光して観察する必要がある。電柱の先端などは、都合の良い遮光物だ。



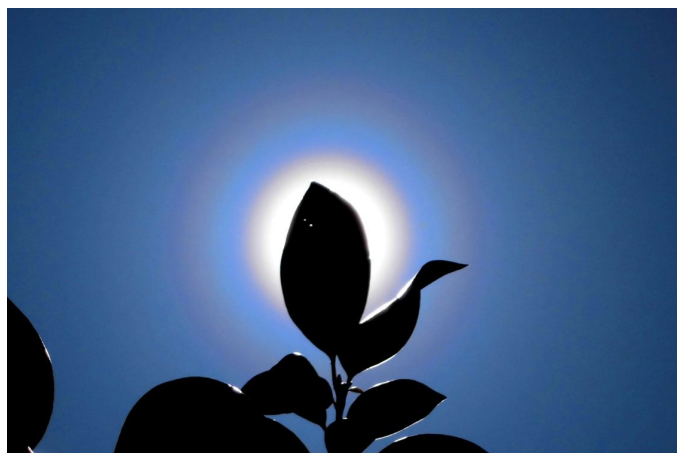
顕微鏡で観察すると、わずか1時間ほどでスライドに大量の花粉が付いていた。花粉が割れて「パックマン」のような形になっているものも多かった。



適当な遮光物がない場合は、建物の角でも良い。肉眼で観察する場合も同じだ。光球を一瞬でも見ると危険なので、地上の影を頼りに、慎重に光環が見える位置を探すようにする。



一番良い写真が撮れるのが、このような国旗掲揚ポール先端だ。光環のほぼ全周を撮影できる。しかしこの位置にカメラを合わせるのは至難の業で、風でポールが揺れていると、ますます難しい。



樹木の葉は、意外と良い写真が撮れる。どの遮光物で撮影する場合も、カメラの露出はややアンダーにしたほうが良い。露出オーバーだと、太陽の周囲が真っ白になり、肝心の光環が全く写らないのだ。